

# 国語（中学校）

## 1 改訂の基本的な考え方

### ○成果と課題（中央教育審議会答申より）

- ・ P I S A 2015 における読解力に関して改善すべき課題
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果よる成果と課題  
伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすること。（課題）  
複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること。（課題）  
文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価すること。（課題）  
言語活動の充実を踏まえた授業改善。（成果）依然として教材への依存度が高い。（課題）

## 2 改善・充実の具体的事項

### ○目標の構成の改善

- ・ 国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理。
- ・ 資質・能力を育成するためには、生徒が**言葉による見方・考え方を働かせる**ことが必要。  
※言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。

### ○内容の構成の改善

- ・ 従前の3領域1事項の構成を、[知識及び技能]及び[思考力、判断力、表現力等]で構成。

#### ■[知識及び技能]

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
- (2) 情報の扱い方に関する事項
- (3) 我が国の言語文化に関する事項

#### ■[思考力、判断力、表現力等]

- A 話すこと・聞くこと
- B 書くこと
- C 読むこと

※「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」は相互に関連しながら育成される必要がある。

※「学びに向かう力、人間性等」は、教科及び学年等の目標にまとめて示している。

### ○学習内容の改善・充実

#### (1) 語彙指導

- ・ 量と質の両面から語彙を豊かにするため、各学年において指導の重点となる語句のまとまりの明示及び語句への理解を深める指導事項の系統化。

#### (2) 情報の扱い方に関する指導（新設）

- ・ 「情報と情報との関係」、「情報の整理」の二つの系統に整理。

#### (3) 学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

- ・ 各領域において、学習過程を一層明確にし各指導事項を位置付け。
- ・ 各領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視した「考えの形成」に関する指導事項を位置付け。

#### (4) 我が国の言語文化に関する指導

- ・ 「伝統的な言語文化」、「言葉の由来や変化」、「書写」、「読書」に関する内容を「我が国の言語文化に関する事項」として整理。

### ○学習の系統性の重視

- ・ 小・中学校を通じて、[知識及び技能]の指導事項及び[思考力、判断力、表現力等]の指導事項と言語活動例において重点を置くべき指導内容の明確化と系統化。

### ○言語活動の創意工夫

- ・ 指導事項を指導する際の言語活動例を言語活動の種類ごとにまとめて提示。

### ○読書指導

- ・ 各学年において、[知識及び技能]に「読書」に関する指導事項を位置付け。
- ・ 「読むこと」の領域において、学校図書館などを利用して情報を得て活用する言語活動を例示。

## 3 移行措置について

- ・ 令和元年度の第1学年、令和2年度の第1学年、第2学年で学習する漢字に追加して指導する。  
【 茨、媛、岡、瀉、岐、熊、香、佐、埼、崎、滋、鹿、縄、井、沖、栃、奈、梨、阪、阜 】

- ・ 令和2年度の第1学年に「共通語と方言の果たす役割について理解すること」を加えて指導する。